

6. 短期研修について

A 語学研修

(1) 語学研修までの流れ

語学研修は毎年学内で説明会が開催されます。最寄りの掲示板や授業で配布される案内に注意し、説明会に参加してください。また、それぞれの語学研修には窓口になっている担当教員等がいますので、詳しくはそちらにおたずねください。単位認定の申請が可能な語学研修については「履修の手引」に記載されています。なお、語学研修の参加者は、出発前に教育支援課へ研修届を提出する必要があります。

(2) 語学研修案内

① ウィスコンシン大学ラクロス校（アメリカ）

アメリカ中西部の代表的な州立大学であるウィスコンシン大学ラクロス校において、本学学生のための体験交流型プログラムを実施します。英語集中授業、学生交流、地元小中高校の見学や授業実施体験などを行い、学生の異文化理解を深めることを目的としています。このプログラムは、異文化を受信するのみならず、自らの文化を発信することにも重点を置いた相互作用型のプログラムです。

教員を目指す学生が、海外において異文化を実際に体験することは必ず必要なことであり、世界の国々と多様な関係を持つ現代日本の将来を担う子供たちを育てる教員こそ、多文化を積極的に体験すべきです。その意味において、このプログラムは単なる英語実践能力育成のためのものではなく、アメリカの言葉と文化を「教育」をキーワードに多面的に実体験することに重点を置いています。

このような受信発信型の海外異文化体験プログラムに参加することによって、視野を広げ、世界を見る目を養い、海外の文化を積極的に受容する態度を身につけられると同時に、英語を使って自らの文化を発信する機会を持つことで、文化における相互作用の重要性を実感することができます。そして、英語を用いて自国の文化を伝えることは大きな自信となり、自己実現の場としても大いに役立ちます。

以下は、引率教員からの研修内容の説明やメッセージです。

Unlike many similar short-stay programs that are largely English-language centered, the UW-L Short-Stay Program is unique in that it is designed to not only give students a chance to practice “survival” English in a formal setting during their stay in Wisconsin, but it also allows for ample occasions to experience the U.S. educational system firsthand by touring schools and observing classes. During their three-week stay in the United States, UTEF students visit kindergartens, elementary, junior and senior high schools, as well as observe university classes.

This program is truly cross-cultural and interactive because UTEF short-stay participants have an opportunity to interact with American students directly by instructing them about Japanese culture through demonstrations of *origami*, *shodo*, and *o-dori*. In addition, a number of community-based events and activities are planned along with sightseeing of local places of interest. Positioned in the northern region of the Midwest in the United States, La Crosse is a quaint city surrounded by beautiful bluffs and the mighty Mississippi River where old-fashioned riverboats can be seen cruising along the river.

This program emphasizes “cross-cultural education” through observation and interaction. A pre-departure orientation is offered over several months to prepare students for the program. UTEF students are assigned specific tasks and work in groups to prepare the Japanese cultural components to introduce to their American counterparts.

Upon the successful completion of the UW-L Short-Stay Program, students will receive two UTEF credits. Students are expected to prepare a “cross-cultural portfolio” (one half of it to be Japan-based and completed before departing for the United States; the other half to be completed during the program using inspiration from their experience in the United States).

I encourage any UTEF student who is interested in comparative-education and who is curious to experience a foreign culture to apply to this program. Every year I chaperone the group, and over the years I have truly enjoyed watching UTEF students expand their international understanding about culture and education through their experience on this short-stay program.

Professor Todd Jay Leonard

近年の派遣状況、参加生レポート等は、下記を参照してください。

・本学HP「留学体験談」

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/interchange/studying_abroad/experiences.html



② ゲーテ・インスティテュート研修（ドイツ）

本研修では、ゲーテ・インスティテュートでのドイツ語の授業の中で、諸外国の若者たちとの意見交換をドイツ語で行います。さらに学生はゲーテ・インスティテュートが提供する学生寮に滞在することから、授業だけでなく、ドイツにおける日常生活の中で、様々な国の若者たちとの交流や助け合いを経験します。また、幼稚園や学校を訪問する中で、現地の子どもたちや生徒、教師たちとの交流を経験することができます。

ゲーテ・インスティテュートでは、午後から様々なレクリエーションプログラムが用意されています。美術館に行ったり、森の散歩を体験したり、ドイツと日本の伝統的な家庭料理を調理してパーティーを企画するなどの異文化体験活動を行います。

また、幼稚園や小学校で、ドイツの子どもたちに向けて、日本の文化や遊びを紹介する機会を設けるため、学生は事前に日本の文化について研究し、教材を準備する必要があります。このことを通して、異文化間コミュニケーション能力を養い、国際的な見地から日本の伝統や文化の素晴らしさを自覚し、発信する機会になると考えられます。ドイツで学び、生活する上での基本的知識を身につけるため、事前に研修を十分に行います。

③ マレーシア英語研修（2～3週間）： 夏休み実施予定

多民族・多言語・多文化・多宗教国家マレーシアの首都クアラルンプール郊外にある私立大学敷地内に設立された英語学校にて実施します。当該英語学校はオーストラリア発祥の英語学校で、シドニー本校は南半球のベスト英会話学校賞を数回受賞しています。

研修初日のテストでそれぞれのクラスに分かれ、多国籍の留学生と共に学習します。宿泊は大学敷地内にある大学寮で、多国籍の留学生や現地学生と交流しながらの生活が楽しめます。催行はその年の世界情勢や現地の状況のみて判断されます。問合せは英語習得院へ。学生センター下の掲示板も確認してください。

④ オーストラリア英語研修（2～4週間）：春休み実施予定

マレーシア英語研修で実施している英語学校の本校を利用して研修を受けます。研修初日のテストでそれぞれのクラスに分かれ、多国籍の留学生と共に学習します。宿泊は現地の家庭にホームステイをし、日本文化を紹介すると共にオーストラリアの家庭で生活を体験し、文化交流を行います。

オーストラリアではインクルーシブ教育など先駆的に多文化共生教育が行われているため、その教育現場に触れる事もできる語学研修です。催行はその年の世界情勢や現地の状況をみて判断されます。問い合わせは英語習得院へ。学生センター下の掲示版も確認してください。

⑤ 遼寧師範大学（中国）

遼寧師範大学は、1951年に創立された遼寧省大連の教育系総合大学です。留学生が学ぶ国際教育学院は、外国人留学生と華僑学生のための中国語教育機関であり、国費留学生の受け入れを認められている学校です。1985年の留学生受け入れ開始以降、約1万2千人の学生が学んできました。

「中国語・中国文化短期研修」は、9月から開始される1年の語学留学プログラムに、最初の3週間参加するものです。1コマは45分、1日4コマ、15日間で計60時間学習します。授業内容は、精読（ピンイン、文法、応用）、口語（会話）、ヒアリング（日常会話の聴き取り）などから成っており、午後には別途中国文化（カンフー、書道、切り紙細工、映画鑑賞）の授業も開かれます。本学の中国語科目2単位に互換することが可能です（平成25年度入学生からは、中国語科目ではなく「海外語学研修」2単位として認定されます）。宿舎については、大学の寮があります。

この短期研修は、協定学生としての正式留学を考えている方にとっても、とてもよい準備研修になると思われます。来年度については、希望者の有無及び運営の運営体制の整備状況によって、実施するかどうか決定します。

B インターンシップ研修、ボランティア研修

問合せは連携推進課へ。フィオーレ横の掲示版も確認してください。

（1）研修までの流れ（予定：年度によって異なります）

	夏休み派遣分	春休み派遣分	備考
説明会	5月連休前後	10月	概要説明 ・前回研修の様子を紹介 ・前回参加者による体験発表 ・申請方法説明 ・質疑応答 など
申請〆切	5月末	11月	連携推進課に申請書類等提出
事前研修	6、7月	12、1月	約2ヶ月で4回程度実施 ・現地理解 ・研修準備 ・危機管理 など
危機管理セミナー	7月	1月	6限に実施 ・保険会社の講師によるセミナー

派遣	8月(約2週間)	3月(約2週間)	—
レポート等提出	9月	4月	—
事後研修	10月	4月	6限に実施 ・振り返り ・報告会準備 など
報告会	10～11月頃	5～6月頃	6限に実施 ・研修参加者主催

(2) 研修案内

下記研修及び事業の催行は、その年の世界情勢や現地の状況をもて判断されます。

① カンボジア インターンシップ・ボランティア研修 : 夏休み実施予定

現地日本語学校及び、カンボジアを支援している日本の一般財団法人での約2週間のボランティア及びインターンシップです。現地の小学校、英語学習機関、地雷被害者宅の訪問、大学等での日本紹介や交流も含まれます。現地サポートの日本人も若干存在しますが、英語コミュニケーション力が必要となります。

② ミャンマー インターンシップ研修 : 春休み実施予定

本学卒業生が勤務している現地のインターナショナルスクール(校長は日本人)での、約2週間の教育実習(授業見学、模擬授業実等)です。教員、児童生徒は共に多国籍なので、英語でのコミュニケーションが基本となります。

近年の派遣状況、参加生レポート等は、本学HPを参照してください。

以下のURLもしくはQRコードから確認できます。

<https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/press/joyama/index.html>

※2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。



- ・2021年実施分(ミャンマー インターンシップ研修)
広報誌JYOYAMA 通信第50号(2021年7月28日発行)、p15
- ・2019年実施分(カンボジア インターンシップ・ボランティア研修)
広報誌JYOYAMA 通信第46号(2019年11月20日発行)、p13
- ・2019年実施分(ミャンマー インターンシップ研修)
広報誌JYOYAMA 通信第45号(2019年7月18日発行)、p9